

## いじめ許容空間をつくらない

2021・11・18 校長 重枝一郎

いじめは、みなさんの心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えます。さらに、生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。したがって、いじめから人を救うために、「いじめは絶対に許されない」「いじめは誰にでも、どの学校でも起こりうる」との意識をもち、後手にまわらない学校生活が必要です。

また、いじめ問題については、社会総がかりで進めるために、「いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）」が平成25年6月に成立しました。この法律に基づき、いじめの防止、早期発見、いじめへの対処、地域や家庭・関係機関の連携等については、より実効的に推進することが求められています。

それでは、なぜ、いじめ問題は解決されないのでしょうか。

いじめの背景には、どのような問題が隠れているのでしょうか。

そして、学校に求められる「いじめを生まない学校生活」とは、具体的にどのような内容で、どのように実践していけばよいのでしょうか。

学校での教育活動としては、人権教育・宗教教育・心の教育の推進や体験的・実践的活動の推進、学級活動の充実、人間関係をつくる教育活動の実施等が考えられます。それらは、目に見えるカリキュラムです。しかし、学校生活には、はっきりとは見えないヒドゥンカリキュラム（隠れたカリキュラム）があります。それは、それぞれの学校がもつ伝統や学校文化、場の雰囲気や空気に加え、集団や個々がもつ雰囲気など、みなさんをとりまく学校生活全般になります。この隠れたカリキュラムの方が、いじめ防止効果が高いとまで言われることがあります。

例えば、落ち着いた雰囲気のある学級と落ち着きのない学級では、同じ授業がなされたとしても、教育効果に違いがあります。学級にマイナスの空気が漂うと、人の話を聞かなくなったり、もめごとが起こったりして、学習効果も低下します。

また、誰かが同じことを言ったとしても、その人がもっている雰囲気やキャラクターによって受け取り方が変わります。実はみなさんは、言葉よりも、表情や口調などから醸し出している、その人の“人となり”を受信しているのです。

人と人とのコミュニケーションについては、実際に話している内容（言語情報）よりも、非言語の部分（見た目などの視覚情報や声の大きさなどの聴覚情報）の方が、印象に残ると言われています。アメリカの心理学者、アルバート・メラビアンによると、話し手の印象は、言葉以外が93%を占めており、話の内容そのものは、わずか7%にすぎないと言われています（メラビアンの法則）。

このようなことを踏まえてみなさんは、自分の個性や特徴に合った言い方や関わりで、学校生活つくる必要があります。

「表情伝言ゲーム」という【演習】を行います。言葉だけじゃなく、表情などの見た目を客観視することを意識してほしい。メタ認知能力の育成につなげてほしい。

このように、「いじめを生まない学校づくり」を考えるにあたっては、ヒドゥンカリキュラム（隠れたカリキュラム）という、見えない教育力を働かせるための意図的なアプローチが鍵を握っています。

人は、感情に伴って行動が誘発されます。特にみなさんの年代はそれが顕著に表れます。その感情がプラスの感情であれば、その言動の意味を深めることにもつながります。つまり、人間関係づくりは、意味面で正論的に迫るより、その人の感情面に働きかけることも意識してほしいと思います。例えばいじめ事案があったとき、「どうしてしたの？」ではなく、「どんな気持ちでそんなことをしたの？」と問いかけると、その後の展開が変わってきます。

A「どんな気持ちで・・・したの？」

B「相手が嫌がるのが楽しかったから」

A「どうして相手が嫌がるのが楽しいの？」

B「みんなもそれを見て笑っているし、盛り上がるから」

A「でもされた人は悲しい思いをしているけどそれはいいの？」

自分に向き合う経験はその人を変えます。

また、いじめがないという「ないものを見る力」も大切です。いじめがある。あるものは見えます。では、いじめがない。ないものをみえているか？ないものをみるとそこには真実や感動が隠れています。いじめがない状態があるとき、それはどうしてないのかを想像してほしい。いじめ問題がないときに、誰が何をしている？もしくは自分はどのようにしている？クラスのルールとマナーはどうなっている？それを見ようとするだけでも「いじめ許容空間」にはならないと思う。私は、学級が落ち着いている時こそ、この「ないものを見る力」を育むチャンスだと考えています。そして、そこでみなさんが考えたことを学級のルールとマナーとしてみんなで契約することがいじめ防止につながると思います。

私は、みなさんの感情にスイッチを入れたいといつも思っています。それは、プラスの感情をもつと、行動がよい方向に積極的になるからです。感情は伝染します。プラスの感情をみなさんがどんどん醸し出し、この学校にさわやかな風を吹かせてほしいと心から願っています。

